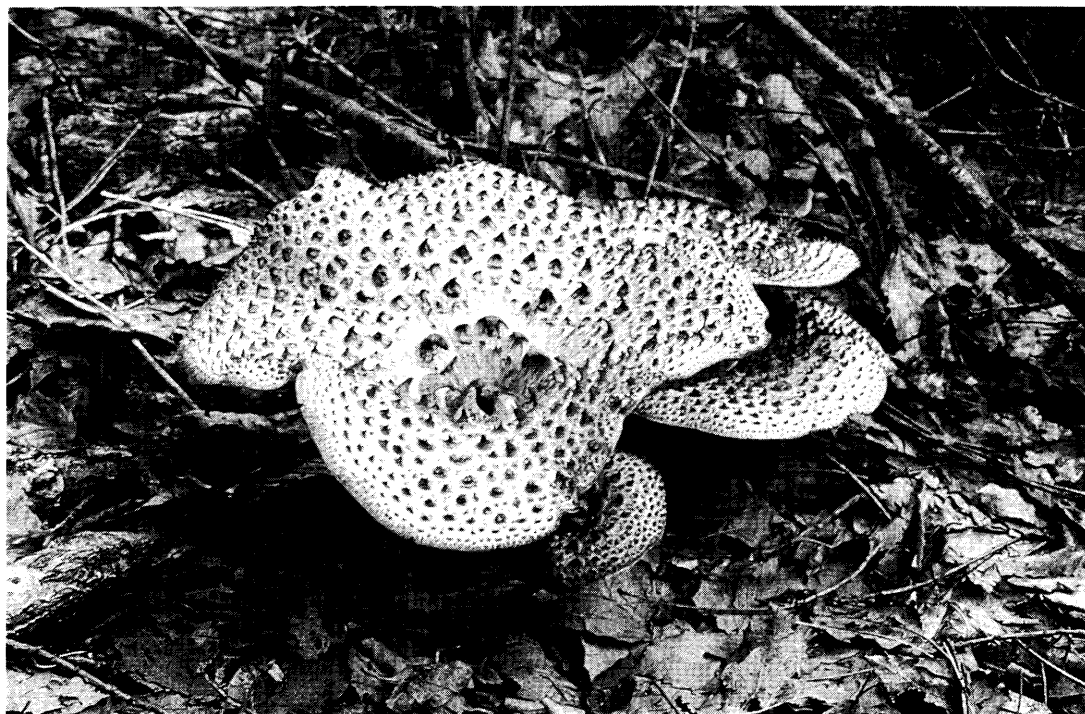


関西菌類談話会会報

2001年12月 No. 24



目 次

表紙 [コウタケ]	杉山 信夫	1
関西菌類談話会事業記録 (1981~2000年)	天野 典英	2
冬虫夏草 ^{とうちゅうそう} というきのこの出会い	中川 宗之	11
きのこスケッチのおさそい	上田 俊穂	12
相良直彦先生のナガエノスギタケ発掘を観察して	佐野 修治	15
ああ長治谷作業所, さらばイカタケ	小寺 祐三	19
表紙によせて, 編集後記など	編集委員会	22

関西菌類談話会事業記録（1981年～2000年）

天 野 典 英

関西菌類談話会役員会では、1997年頃より将来の会の事業内容について断続的に論議されてきている。論議を深めるため、日本菌学会報と関西菌類談話会報に掲載された活動記録を基にして、関西菌類談話会が実施してきた事業を筆者なりに纏めた資料を作成して役員会の席で配布した。今回その時の配布資料をもとに1999年度と2000年度の事業記録を追加して、関西菌類談話会事業記録（1981年～2000年）として発表したい。なお、シ

ンポジウムと分類学講座については、1978年からの記録を載せた。

なお本記事は筆者個人の責任において作成したものであり、内容についての責任も筆者個人にあることをお断りしておきます。また、採集会はすべて観察会に訂正してあります。

会員の皆様から、今後の関西菌類談話会の事業について様々なご意見・ご提案を頂戴できれば幸いです。

1. 年度ごとの事業記録

1981年度

例会番号	内容	場所	参加者数
184	総会／講演会	京大会館	43
185	分類学講座（第6回）	京都府立大学	36
186	観察会	大山崎，天王山	60
187	観察会	近江神宮	37
188	大台ヶ原採集会	大台ヶ原	77
189	観察会	鞍馬山	26
190	観察会	大文字山	50
191	観察会	滋賀大学裏山	34
192	スライド大会	田中神社 弘安殿	32

1982年度

例会番号	内容	場所	参加者数
193	総会／講演会	同志社女子大	47
欠番			
195	分類学講座（第7回）	京都府立大学	29
196	観察会	大山崎，天王山	55
197	観察会	近江神宮	51
198	観察会	清水山	54
199	観察会	大文字山	41
200	観察会	滋賀大学裏山	33
201	スライド大会	田中神社 弘安殿	不明

1983年度

例会番号	内容	場所	参加者数
203	総会／講演会	同志社女子大	56
204	分類学講座（第8回）	京都府立大学	37
205	観察会	大山崎，天王山	45
206	観察会	清水山	52
207	観察会	鞍馬山	34
208	臨時総会／講演会	同志社女子大	30
209	観察会	大文字山	46
210	観察会	滋賀大学裏山	50
211	スライド大会	田中神社 弘安殿	45

1984年度

例会番号	内容	場所	参加者数
212	総会／講演会	京大会館	40
213	分類学講座（第9回）	京都府立大学	26
214	観察会	大山崎，天王山	31
215	観察会	清水山	51
216	大台ヶ原採集会	大台ヶ原	54
217	観察会	鞍馬山	44
218	観察会	大文字山	60
219	観察会	滋賀大学裏山	35
220	シンポジウム	同志社女子大	69
221	スライド大会	田中神社 弘安殿	45

1985年度

例会番号	内容	場所	参加者数
222	総会／講演会	京都私学会館	45
223	分類学講座（第10回）	京都府立大学	43
224	観察会	大山崎，天王山	38
225	シンポジウム	京都府立大学	50
226	観察会	宝ヶ池，深泥池	49
227	奥伊吹採集会	伊吹山	59
228	観察会	伏見稲荷	44
229	観察会	鞍馬山	43
230	観察会	滋賀大学裏山	58
231	スライド大会	田中神社 弘安殿	47

1986年度

例会番号	内容	場所	参加者数
232	総会／講演会	京都府立大学	49
233	分類学講座（第11回）	京都府立大学	57
234	観察会	伏見稲荷	21
235	シンポジウム	京都府立大学	36
236	観察会	箕面公園	47
237	富士山採集会	富士山	50
238	観察会	私市	57
239	観察会	京大演習林上賀茂試験地	61
240	観察会	野洲町希望が丘文化公園	不明
241	スライド大会	田中神社 弘安殿	41

1987年度

例会番号	内容	場所	参加者数
242	総会／講演会	京都府立大学	52
243	分類学講座（第12回）	京都府立大学	33
244	観察会	箕面公園	36
245	観察会	京大演習林上賀茂試験地	37
246	富士山採集会	富士山	51
247	観察会	鞍馬山	48
248	観察会	大文字山	29
249	観察会	滋賀県三上山	47
250	シンポジウム	大阪府立大文化交流センター	63
251	スライド大会	田中神社 弘安殿	42

1988年度

例会番号	内容	場所	参加者数
252	総会／講演会	京都教育文化センター	不明
253	分類学講座（第13回）	京都府立勤労会館	42
254	シンポジウム	芦屋市民センター	48
255	観察会	長岡天満宮裏山	43
256	観察会	伏見稲荷	32
257	朝日の森採集会	朝日の森	55
258	観察会	鞍馬山	24
259	観察会	京大演習林上賀茂試験地	48
260	観察会	三上山	45
261	スライド大会	田中神社 弘安殿	44

1989年度

例会番号	内容	場所	参加者数
262	総会／講演会	京都大学楽友会館	不明
263	分類学講座（第14回）	京都府勤労会館	40
264	シンポジウム	京都府教育文化センター	46
265	観察会	近江神宮	31
266	観察会	伏見稲荷	46
267	朝日の森採集会	朝日の森	42
268	観察会	箕面公園	5
269	観察会	大文字山	34
270	観察会	岩倉（尼吹山）	61
271	スライド大会	田中神社 弘安殿	55

1990年度

例会番号	内容	場所	参加者数
272	総会／講演会	吹田市民会館	49
273	分類学講座（第15回）	滋賀大学	35
274	シンポジウム	京都教育文化センター	70
275	観察会	三井寺裏山	35
276	観察会	橿原神宮	43
277	大山採集会	大山	42
278	観察会	箕面公園	48
279	観察会	京大演習林上賀茂試験地	56
280	観察会	岩倉（尼吹山）	57
281	スライド大会	田中神社 弘安殿	65

1991年度

例会番号	内容	場所	参加者数
282	総会／講演会	高槻市民会館	62
283	分類学講座（第16回）	滋賀大学	32
284	シンポジウム	京都府立勤労会館	61
285	観察会	三井寺裏山	49
286	観察会	橿原神宮	36
287	大山採集会	大山	53
288	観察会	箕面公園	39
289	観察会	比良山麓、イン谷口周辺	72
290	観察会	大文字山	52
291	スライド大会	田中神社 弘安殿	72

1992年度

例会番号	内容	場所	参加者数
292	総会／講演会	同志社女子大	51
293	分類学講座（第17回）	滋賀大学	53
294	シンポジウム	同志社女子大	73
295	観察会	橿原神宮	53
296	乗鞍高原採集会	乗鞍高原	79
297	観察会	万博記念公園	52
298	観察会	比良山元気村	62
299	観察会	大文字山	60
300	スライド大会	同志社女子大	76

1993年度

例会番号	内容	場所	参加者数
301	総会／講演会	同志社女子大	45
302	分類学講座（第18回）	京都植物園	40
303	シンポジウム	同志社女子大	49
304	観察会	橿原神宮	67
305	観察会	宇治・興聖寺	51
306	乗鞍高原採集会	乗鞍高原	79
307	観察会	六甲山奥池	78
308	観察会	比良山麓	60
309	観察会	希望ヶ丘森林公園	42
310	スライド大会	田中神社 弘安殿	54

1994年度

例会番号	内容	場所	参加者数
311	総会／講演会	同志社女子大	56
312	分類学講座（第19回）	京都橘女子高等学校	29
313	シンポジウム	同志社女子大	38
314	観察会	橿原神宮	47
315	観察会	宇治・興聖寺	38
316	乗鞍高原採集会	乗鞍高原	82
317	観察会	六甲奥池	35
318	キノコ展	京都府立植物園	約1500
319	観察会	比良山麓	62
320	観察会	希望ヶ丘森林公園	45
321	スライド大会	田中神社 弘安殿	57

1995年度

例会番号	内容	場所	参加者数
322	総会／講演会	同志社女子大	32
323	分類学講座（第20回）	京都橘女子高等学校	16
324	シンポジウム	滋賀大学	32
325	観察会	橿原神宮	59
326	観察会	宇治・興聖寺	63
327	ハヶ岳採集会	ハヶ岳山麓	73
328	観察会	春日山原生林	27
329	観察会	比良げんき村	65
330	観察会	宝ヶ池	49
331	スライド大会	田中神社 弘安殿	53

1996年度

例会番号	内容	場所	参加者数
332	総会／講演会	同志社女子大	不明
333	分類学講座（第21回）	京都橘女子高等学校	21
334	シンポジウム	茨木市民会館	29
335	観察会	橿原神宮	63
336	観察会	宇治・興聖寺	37
337	ハヶ岳採集会	ハヶ岳山麓	64
338	観察会	宝塚市中山寺	68
339	観察会	比良げんき村	27
340	きのこ展	京都府立植物園	3953
341	観察会	宝ヶ池	39
342	スライド大会	田中神社 弘安殿	不明

1997年度

例会番号	内容	場所	参加者数
343	総会／講演会	京都府立大学	42
344	分類学講座（第22回）	生物環境研究所	37
345	シンポジウム	生物環境研究所	51
346	観察会	橿原神宮	48
347	観察会	宇治・興聖寺	69
348	ハヶ岳採集会	ハヶ岳山麓	62
349	観察会	宝塚市中山寺	50
350	きのこ展	京都府立植物園	3908
351	観察会	宝ヶ池	43
352	観察会	比良山麓	57
353	スライド大会	田中神社 弘安殿	53

1998年度

例会番号	内容	場所	参加者数
354	総会／講演会	京大会館	64
355	分類学講座（第23回）	生物環境研究所	29
356	シンポジウム	大阪市立大・文化交流セ	52
357	観察会	橿原神宮	53
358	観察会	宇治・興聖寺	44
359	八ヶ岳採集会	八ヶ岳山麓	70
360	観察会	宝塚市中山寺	32
361	きのこ展	京都府立植物園	2282
362	観察会	宝ヶ池	10
363	観察会	比良山麓	56
364	スライド大会	田中神社 弘安殿	64

1999年度

例会番号	内容	場所	参加者数
365	総会／講演会	京大会館	60
366	菌類学セミナー	生物環境研究所	45
367	観察会	橿原神宮	68
368	観察会	箕面公園	58
369	岡山採集会	岡山県森林公園	52
370	きのこ展	京都府立植物園	3851
371	観察会	宝ヶ池	36
372	観察会	比良げんき村	54
373	スライド大会	田中神社 弘安殿	72

2000年度

例会番号	内容	場所	参加者数
374	総会／講演会	京大会館	74
375	菌類学セミナー	生物環境研究所	60
376	観察会	橿原神宮	61
377	観察会	箕面公園	56
378	岡山採集会	岡山県森林公園	37
379	きのこ展	京都府立植物園	4459
380	観察会	宝ヶ池	25
381	観察会	比良げんき村	56
382	スライド大会	田中神社 弘安殿	81

2. シンポジウム

年度	例会番号	場所	参加者数	タイトル
78	158	京都大学楽友会館	40	有用担子菌の栽培法
79	167	京都教育文化センター	45	生物体表の微生物 I
84	220	同志社女子大	69	きのこ栽培
85	225	京都府立大学	50	菌類育種に対する新しい技術—バイオテクノロジーへの道
86	235	京都府立大学	36	菌類と偶然による進化
87	250	大阪府立大文化交流センター	63	食用きのこの栽培技術 現状と展望
88	254	芦屋市民センター	48	菌類のサクセッション
89	264	京都府教育文化センター	46	菌根菌研究の現状と展望
90	274	京都教育文化センター	70	マツタケは栽培できるか
91	284	京都府立勤労会館	61	栽培キノコの現状と将来展望
92	294	同志社女子大	73	菌根菌の栽培の現状と将来展望
93	303	同志社女子大	49	きのこの生理的性質と分類
94	313	同志社女子大	38	シイタケの新しい栽培技術
95	324	滋賀大学	32	ヒトときのこ
96	334	茨木市民会館	29	きのこの利用
97	345	生物環境研究所	51	きのこ分類学の最前線
98	356	大阪市立大・文化交流セ	52	きのこの生理活性成分

3. 宿泊観察会

年度	例会番号	開催場所	参加者数
81	188	大台ヶ原	77
84	216	大台ヶ原	54
85	227	伊吹山	59
86	237	富士山	50
87	246	富士山	51
88	257	朝日の森	55
89	267	朝日の森	42
90	277	大山	42
91	287	大山	53
92	296	乗鞍高原	79
93	306	乗鞍高原	79
94	316	乗鞍高原	82
95	327	八ヶ岳山麓	73
96	337	八ヶ岳山麓	64
97	348	八ヶ岳山麓	62
98	359	八ヶ岳山麓	70
99	369	岡山県立森林公園	52
00	378	岡山県立森林公園	37

4. 分類学講座

年度	例会番号	場所	参加者数	内容
75	130	滋賀大学	21	ベニタケ属の分類
76	140	滋賀大学	18	ホコリタケの分類
77	149	京都府立大学	31	チチタケ属の分類
79	159	京都府立大学	19	アセタケ属の分類
80	176	京都府立大学	31	担子菌類の化学成分Ⅰ 子実体の構成糖
81	185	京都府立大学	36	アンモニア菌の種類組成
82	195	京都府立大学	29	愛知のきのこ
83	204	京都府立大学	37	馬ふんに生えるきのこ
84	213	京都府立大学	26	植物の病気と病原菌
85	223	京都府立大学	43	イグチ類の分類
86	233	京都府立大学	57	サルノコシカケの分類
87	243	京都府立大学	33	植物の病気とその見分け方
88	253	京都府立勤労会館	42	コウヤクタケの分類
89	263	京都府立勤労会館	40	菌根性ハラタケ目
90	273	滋賀大学	35	腹菌類の分類
91	283	滋賀大学	32	ハウキタケ属の分類
92	293	滋賀大学	53	イグチ類の分類
93	302	京都府立植物園	40	キシメジ科の小菌
94	312	京都橘女子高等学校	29	顕微鏡の使い方（入門編）
95	323	京都橘女子高等学校	16	顕微鏡の使い方（中級編）
96	333	京都橘女子高等学校	21	顕微鏡の使い方（入門編）
97	344	生物環境研究所	37	きのこ分類学入門
98	355	生物環境研究所	29	本郷により発表されたきのこ類の新群の学名について

5. 菌類学セミナー

年度	例会番号	場所	参加者数	テーマ
99	366	生物環境研究所	45	ビオトープの生態学
00	375	生物環境研究所	60	きのこ研究のこれから

（連絡先：〒569-0802 大阪府高槻市北園町7-17 e-mail: src09685@nisiq.net）

とうちゅう 冬虫夏草というきのこの出会い

中 川 宗 之

平成元年八月、関西菌類談話会（きのこの研究会）が企画した滋賀県、朽木村「朝日の森、採集会」に初めて参加したときのお話です。（朝日の森一朝日新聞社が創立百年の記念事業の一つとして開発した自然の森です。）

ふと見ると数人が、何かガヤガヤと話し合っている様子、早速近寄ってみる。セミの頭から甲虫の角のようなものを突出させている奇妙な物体をみんなが、各々のカメラに収めています。リーダー格の先生（元京都の小学校の校長先生とか）「とうちゅうかそうというきのこの仲間です。漢字で、冬・虫・夏・草、と書きます。と周囲の人達に説明されていました。早速、きのこの本を調べてみますと……セミにとりついた菌が……セミの体に菌糸をはびこらせて殺し、その栄養できのこが成長するとあります。大自然の複雑さと生物の営みの不思議さに改めて、感動を覚えました。

中国ではこうも「蛾」の幼虫にとりつくきのこもあり、大変高価であるといわれています。日本ではセミ、チョウのさなぎ、ハチ、アリなどから発生する冬虫夏草が知られています。

現地での採集が終わった後、宿に戻り同定会（採集したきのこを一箇所に集め、きのこの研究歴三十年余年の会員の方々が、同種とみられる種を識別する会合）に参加してみるといくつかの冬虫夏草が並べてあり、何とも不可思議な世界を、体験いたしました。

金沢の兼六園は、（金沢は私の出身地です）セミタケ（冬虫夏草の一種）の宝庫です。都市部の庭園にしては、珍しく土壌の生態系が安定していて、（京都御所の庭園も同様）セミタケにとっては、まさに居心地の良い百万石の庭園です。冬虫夏草は中国で不老不死、強壯の秘薬として、重宝されていて我国でも近年とくにこの種の研究が盛んです。

またガンに効くと云われているのは、βグルカンという成分がきのこに含まれていて、体の免疫力を高め促進する機能が、期待されているということです。特に中高年の私達には興味津々、この驚異的な強精作用を持つ「冬虫夏草の食効」につ

いて、多く学者達が競って研究を重ねているところです。

翌日再び森の中をそぞろ歩いていると、中学生らしいお孫さん連の方が私に、「木の根元だけを見るのではなく、木の上部も見て、この木は何の木かを見定めた上で、しっかりと根元を見るのですよ」と親切に教えていただきました。後で知ったことですが、関西、いや日本でもトップクラスの研究者で滋賀大学の名誉教授のH先生であることが分かりました。その大先生との出会いで、きのこの研究会（関西菌類談話会）、日本菌学会のこと等々を教えていただき、きのこの世界にすっかりのめり込むことになりました。

現在我国には未発表のものを含めて、約三千種のきのこがあるといわれ、これらの新種の発見は、アマチュアきのこファンの力が大きな原動力となっているとのこと。ひょっとすると己が新種の発見もあるのではないかと大それた夢を抱き、きのこ・きのこ近隣の山々を歩き回っています。

昭和五十一年に現在住んでいる団地に引っ越してきました。周辺は山また山で妙見連山にも比較的近く、日本の里山ならば、多少の時期の差があったとしても、北陸・金沢の里山と同じきのこがあるのではないかとある日ふと思いを巡らせました。私が小学五年生の頃、父と金沢市の郊外、別所町付近又三小牛町辺りに、きのこを採りに何回か出かけた記憶が残っていたのです。

食べられる雑ゴケ（北陸・金沢地方の表現）、アマタケ・ハツタケ・ムラサキナギナタダケ又ヌメリグチ等々を探し回った楽しい思い出を持っています。

現在の川西市周辺の里山には乱開発で荒れており、きのこの採集は不可能か、とも考えていましたが、しかし、歩いてみると、あるは、あるは、アマタケ（金沢ではツバタケと呼んでいる）をはじめ、ヌメリグチ、ハツタケなどを採集することができました。

金沢ではきのこのことをゴケといっていますが、このきのこの呼び方は地方によって、いろいろ異なり、四国地方ではナバと呼ばれているよう

です。したがってきのこの呼び方を聞けば、いずれが出身地かと、およそその見当がつくというものです。

私は昭和六十三年に「関西菌類談話会」に入会、現在に至っています。会員の職業は千差万別で、学校の先生方が一番多く次に、食品・醸造・医師・府県農業試験場等々、私の様な銀行屋 OB は、やはり稀な存在です。会員が所属している各企業の研究に対する姿勢は並々ならぬものがあり、セミプロ級の方々がほとんどとお見受しております。

頭髪が白くなって、幼稚な質問を繰り返してい

る私に対しても、仲間の先輩方は、非常に親切です。大変有り難いことと感謝しています。入会後すでに十数年の月日が流れ、交流も多くなっていますが、私自身はあまり進歩していません。しかし健康のためには、最高の趣味と気負、今後も続けて行きたいと考えております。よく人から「きのこの魅力は、なんですか」と聞かれることがありますが、その都度山のきのこに聞いてみましょう……と逃げ回ることになっています。

(連絡先：〒666-0116 川西市水明台4丁目2番36号, Tel. 0727-93-5732)

きのこのスケッチのおさそい

上 田 俊 穂

春や秋のような気候のよいとき、山道、川沿い、公園などで絵を描いている人に出逢うことがあります。自分にも絵心があればなあ、と羨ましく思わずにはおれません。私のかつての同僚の英語の教師は突然油絵を描き始め、約4年間美術の同僚に教えられながら、みるみる腕前をあげ、個展をひらき、その絵が売れ、われわれを驚かせました。

しかし、描いた絵が売れるとか、〇〇展に入選するとかは別として、誰でもその人の描き方で何とか描けるものです。「きのこをスケッチして何になるのだろうか」などと真剣に考え込むと何やら馬鹿らしい気もしてきます。でも、美しい自然、珍しい自然などをたとえその姿の十分の一でも残せたらどんなに楽しい事かは、実際にやってみてスケッチが蓄積していけば判るでしょう。あまり気負わず、とにかく描いてみませんか。「美しく仕上げよう」という意気込みは必要ですが、気楽な気持ちでないと長続きしません。

きのこは採ってきてすぐに食べられたり、虫やかびにやられてしまったりで、生の時の姿で観察できるのはごく短期間です。生の時の形や色合いを留めておく最も簡単な方法は写真撮影です。近頃、素晴らしい写真を使った図鑑類がいくつも出版されていますが、あの写真一枚のために蚊に攻められ、雨に悩まされながら何十分、何時間も時には何日もかかり、絵を描く以上に大変なことも

あるのです。私達が街の写真屋に焼き付けを普通に頼むと、機械焼きのため、色やピントなどで不満なものしか出来上がらないことが多いものです。ひとつ、水彩絵の具を使ってきのこの絵を描いてみようではありませんか。山で偶然見つけたマツタケを、ありがたく賞味させていただき、生の時の姿は素晴らしい精密画となって玄関を飾るなんて、愉快的なことではないでしょうか。また、描くことによって、写真撮影するよりもっと細部まできのこを知ることができるのです。

前置きが長くなりました。私は絵の専門家ではありません。我流の描き方しか知りませんが、それをご紹介します。

準 備

次のものを準備して頂きましょう。

- ・ケント紙（画用紙はきめが粗い）。
大きさは例えばこの会報の半分程度に統一しておきます。
- ・鉛筆。2H、3H程度の硬い芯のものを、よく尖らせておきます。
- ・絵の具。12色程度の普通品で十分。
- ・筆。習字用の細筆の糊を落としたもの。太さを変えて2、3本必要。面相筆も一本あれば便利です。
- ・パレット。白いプラスチックの普及品でよい。

よく使う色を出しておきます。混ぜ合わせて好みの色を出しますが、使用後は水洗いしなくてもかまいません。それは、次のスケッチの時に適当な色がパレット上にあるかもしれないからです。

- ・ものさし。描く時にきのこの各部の長さを測るのに使います。
- ・ナイフ。断面図を描くのに使います。
- ・ハンカチ。ケント紙に汗がしみこむのを防ぎます。
- ・他に、消しゴム、筆洗い、筆拭き、皿（きのこを入れる）など。

採 集

さて、読者が今日はひとつきのこ狩りに行って、帰ってからスケッチをしてみようと思われたとします。その時は、疲れない程度に切り上げて、帰宅されないとスケッチどころではありません。午前中採集、午後は一種類か二種類だけスケッチというくらいのゆったりしたペースが私は好きです。

きのこを見つけたらすぐには採らず、まず周りの状況や感じをよく観察します。写真を撮ることもいいでしょう。それから注意深くきのこをとります。根元に着いている土や腐葉が、きのこの傘やひだに着いて汚れないように取り除き、紙袋などにいれます。触れたり、傷ついたりすると変色するもあるので丁寧に扱います。

描 画

採ってきたきのこの中で、なるべく形の整った幼菌や成菌をいくつか選びます。スケッチが初めての方は、傘や柄に鱗片などが無い、平滑で描きやすそうなものがないのではないかと思います。グッとにらんで特徴をつかみ、どの方向から描くのが一番いいかを決めるのですが、これがなかなか大切なのです。なぜかといいますと、きのこの外形、つまり大きな特徴がこれで決まってしまうからです。あまり斜め下から見ると、傘の表面が見えずひだや管孔ばかりなので描きにくく、また、斜め上から見ると、傘の表面ばかりで柄が見えず、色づけがむずかしいことが多いようです。そこでま横あたりから眺め、ひだまたは管孔が少し見えるような方向を探すのが、無難な「手」です。多くの場合、この方向が最も特徴をよく表します。

(図1 A・B)

描く大きさは実物大にします。非常に大きいも

のや小さいものは適当に拡大、縮小します。傘から描いてゆきましょう。ものさしで大きさを測り、細い線で輪郭や表面の状態を表現してゆきます。この時、傘や柄がこわれていても、無視して完全な形に描いていいと思います。筆圧を高くして描くと、ケント紙が凹んで訂正がしにくくなります。また、ケント紙に汗がしみこむと、塗った絵の具がまだらになるので、手の下にハンカチを敷きます。

ひだの間隔は、きのこによって決まっております正しく描写することが大切です。傘の縁から柄までとどく大きなひだと、それより短い小さいひだとがあるきのこもあります。こういった事にも注意します。管孔の場合は点や短い線で表します。このようにして、傘がすめば柄を描いて鉛筆によるスケッチを終わります。

いよいよ色をぬります。失敗するとまた鉛筆画からやりなおさねばなりません。一度のぬりで、思い通りの色や状態を表すことは不可能ですから、淡く色をぬり、乾いたらその上に次の色をぬって近付けます。淡い色からぬり、濃い色、暗い色は後にまわします。また、筆に絵の具を含ませすぎると乾きがおそいだけでなく紙に凹凸ができたり、まだらになったりします。多くのきのこでは、傘の表面の菌糸の並び方は放射状になっているので、筆を動かす方向も傘の中心から、縁へ向かって動かすのがいいようです。

ひたとひだとの間に陰影をつけると、立体感がついて絵が引き立ちますが根気と多少の訓練が必要です。簡単な方法としては、鉛筆でのスケッチのときに鉛筆で淡く陰影をつけておき、その上からひだの色をぬるのですが、ひだが淡色のときしか役立ちません。

柄は傘に比べて色をつける面積が少ないのです

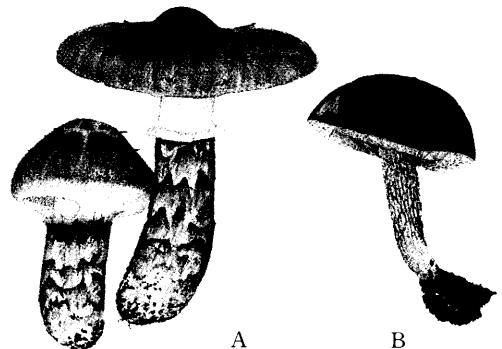


図1 A マツタケ(×0.55) B キアミアシグチ(×0.78)

が、イグチ類のように網目があったり、綿毛や細点があったりすると手間がかかります。

傘や柄の両端付近に少し陰影をつけるだけで、絵がグンと引き立ちます。先程述べた鉛筆による方法とがあります。後者はごくわずかの黒絵の具を一滴の水に溶きます。それをよく水洗いして拭いた筆の先にほんの少し含ませ、輪郭をたどりま。筆の先端ほど濃い色が集まるので、縁ほど濃く陰影がつけられます。(図2 A・B)

最後に、柄の根元に焦茶色などで土や落ち葉などを少し描き入れて完成です。色をぬった後も鉛筆の線は消しませんので、出来るだけ不要な線は書かないようにします。

きのこを縦に切った断面図のスケッチはぜひかいておきましょう。これによって傘や柄の内部、ひだの幅や先の状態、柄との接し方、傘の縁部の状態など多くのことがわかります。切ることによって変色するきのこでは、断面図を縦線で分けて、左側を切った直後の色、右側を変色後の色にする変色の様子がわかります。

次に色をつけずに黒い線で描く線画の描き方をご紹介します。

初めに鉛筆でスケッチしますが、このときはHBなどの軟らかい芯の鉛筆を使います。鉛筆の線はすべて後で消しますので、押さえて濃く描きすぎないようにします。一通りの形状が鉛筆で表せたとしても、次は墨入れです。墨汁と丸ペンを使うのがいいのですが、やや取り扱いにくいのが欠点です。今ではいろいろな太さの細いフェルトペンが安価で入手できます(例えばパイロット: ドロウイングペンなど)。それを使って、傘と柄の輪郭そしてひだを、できる限りなぞらいて(つまり一本線で)、鉛筆のあとをたどって描きます。傘や柄の表面の状態は、点や線を巧みに使って表

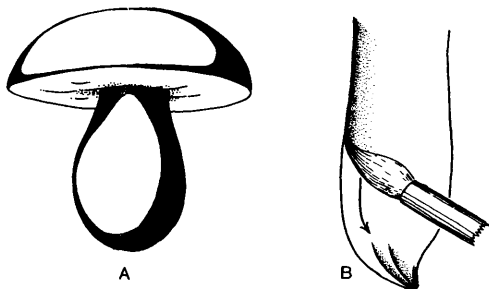


図2 傘と柄の黒くぬった所に少し陰影をつけると立体感が出る

現します。例えば、表面につやがなく、粉をかぶっているような時は細点を密に打ったり疎に打ったりして表します。繊維状の鱗片をつけている時は、おもに細線で表します。図3は五人の学者の論文にのっていた図ですが描き方はさまざまです。

さて、墨入れが終わり、インクがよく乾いていることを確かめてから、鉛筆の線を消しゴムで静かに消します。

形や表面の状態に特徴があるものは、線画だけでも種類がわかるのもあります。

短命なきのこのあで姿を、水彩画や線画、ときには色鉛筆で残してやりましょう。

以上にご紹介した描き方は単なるひとつの方法にすぎません。経験を積まれて素晴らしい絵をお飾りください。(大阪府立春日丘高等学校)

この小文は、財団法人日本きのこセンター発行の「菌叢」34(11)、1988の48~52ページに掲載していただいたものを、同センターの許可を得て再録させて頂いたものです。文章は多少変更しました。許可をいただいた日本きのこセンターにお礼申し上げます。

(連絡先: 〒617-0816 長岡京市西の京14-2)



図3 線画によるきのこのスケッチ (×0.35)

1: ナラタケ (Horak, E. 1968), 2: オオシロカラカサタケ (Pegler, D. N. 1977), 3: パカマツタケ (Hongo, T. 1974), 4: ナガエノアカカゴタケ (小林義雄, 1938), 5: 木生仮牛肝菌 (中国名) *Boletinus lignicolus* Zang. (范淑琴編, 1983)

相良直彦先生のナガエノスギタケ発掘を観察して

アパレルメーカー・山益（株） 佐野 修 治

Watching the excavation of *Hebeloma radicosum* fruiting site by Dr. N. Sagara

S. Sano (YAMAMASU Co., Ltd.)

第383回例会 関西菌類談話会 講演

2001年2月17日 京大会館101号室

はじめに

京都の北山、奥深くに位置する鍋谷山（私有地）周辺に北山杉の先祖に当ると言われる「伏条台杉」と呼ばれる巨大な杉が群生している。

1994年秋、「自然界との共生」をテーマとした法然院森の教室の観察会で当地を訪れた。勿論、きのこの観察も兼ねて道中は《きのこ目》になり採集・記録を取りながら登山した。そして、思いもよらず、ナガエノスギタケに出会え、マーキング処理の後、相良直彦先生にお知らせした。

一年後の1995年秋、相良先生のお車に同乗させて頂き、現地までご案内し「ナガエノスギタケとモグラの巣の発掘・調査作業」を目の当たりに観察させて頂くチャンスを得た。

結果、ナガエノスギタケ発生地点からの発掘で、菌糸が茂ったモグラの排泄物跡と坑道、落葉を積み重ねた楕円球型の巣が現われた。そして、もうひとつの大きな驚きは、排泄所には菌糸だけではなく樹木の細根も茂っていて外生菌根を形成し、菌根に吸収された物質の一部はきのこの子実体に姿を変え、また一部は樹木の成長に、そして、モグラの巣の周辺土壌は清潔さが確保される…。つまり「動物・植物・菌類」三界の生物が共生し共存している姿がそこにあった！正に目から鱗が落ちる思いであった。

今回の総会で相良直彦先生が特別講演をされるとお聞きし、あの日の発掘現場写真を中心に、発掘手順や使用道具、なによりも感動した、相良先生のご研究に対する姿勢などをぜひ会員の皆さん

にご報告申し上げたく発表させていただきます。

ナガエノスギタケ

Hebeloma radicosum (Fr.) Ricken

《相良直彦先生のご研究で解明されたことの一部》
別名「モグラノセツチンタケ」・土龍の雪隠茸
モグラの排泄所跡（便所跡）からのみ発生することがわかった。

尿素をまいても発生しない、したがって「アンモニア菌」ではない。

発生地はブナ科、マツ科、カバノキ科の樹林が単独か混合して優先している林。

モグラの種類は、コウベモグラ、アズマモグラ、ミズラモグラ、ヒミズである。

混同されていたナガエノスギタケダマシは、多様なアンモニア源によって発生する「アンモニア菌」であり、モグラ類の排泄所跡では見つからない。

発見時の資料（A 地点）

年月日	—1994年（平成6年）10月2日
発生場所	—京都市左京区広河原鍋谷山、標高800 m 地点
発生地植生	—スギ、ミズナラ、イヌブナ、ササなどの混生林
発見者	—京都市中京区 村岡 晃
現地同定者	—京都市上京区 佐野修治
通報者	—京都市上京区 佐野修治
子実体数	—成菌2個（地上部で確認した子

実体のみ)

発掘時の資料 (A 地点)

年月日 —1995年(平成7年)10月11日
発生場所 —1994年発見同地点(A 地点)
子実体数 —老菌2個(地上部で確認した子実体)
 幼菌1個(地下部で確認した子実体)
モグラの巣 —1個
モグラの種類—ミズラモグラ(後日相良先生調査による)

別地点発見時の資料 (B 地点) —A 地点発掘時に発見した。

年月日 —1995年(平成7年)10月11日
発生場所 —A 地点より下るB 地点, 標高750 m 地点
発見者 —京都市上京区 佐野修治
子実体数 —老菌6個・成菌1個(地上部で確認した子実体のみ)

参考—発掘時の資料 (B 地点) —相良先生より連絡頂いた。

年月日 —2000年(平成12年)10月
発生場所 —1995年発見同地点(B 地点)
子実体数 —18個
モグラの種類—アズマモグラ(後日相良先生調査による)

おわりに

普段は目にすることの無い地中の生物の営みを「きのこ」を通して垣間見ることが出来、新鮮な驚きと大きな感動を与えて下さった、相良先生に心から感謝申し上げます。また、今回の講演の推薦を頂きご指導下さった下野先生に御礼申し上げます。

参 考 文 献

相良直彦 1990. ナガエノスギタケが草地や果樹園に生えるか. 日菌ニュース.
相良直彦 1991. モグラノセツチンタケ紀行. アニマ.
相良直彦 1992-3. 菌類生態学とは何か. 第1回~6回(最終回まで). Biosphere.
相良直彦 1995. きのこと人と. 『洛北岩倉誌』・抜刷. 岩倉北小学校創立20周年記念事業委員会.
久山喜久雄 1994. MURYOJU 第14・15号. Report 森の教室. フィールドソサエティ.

発生地付近



1—伏条台杉(胸高周囲18.5 m)の下で記念写真(右から)相良直彦先生(京都大学大学院 人間・環境学研究科教授)尾高一郎氏(入山手続き者・北山の自然と文化を守る会代表幹事)川崎友絵氏(関西菌類談話会会員)著者

A 地点発生地



2—まずは、ナガエノスギタケ発生地の記録から…カメラを構えてシャッターを切る瞬間の相良先生、ポーズが決まっている! 発掘作業が夕刻に及ぶ事を想定して、午後1時に日の当る側から掘り始める。



3—大きなスコップ（傍らに見える）で掘った後、石ころを取り除いたり、はさみを駆使して植物の根のカット作業中。腹這いになったり、横向きになったり…そのお姿を見ているだけでも自然への愛情を感じて感動した！



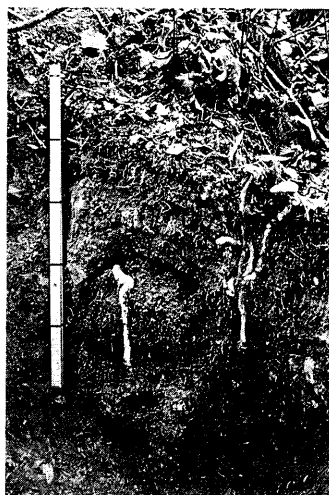
4—「モグラの巣」が姿を見せた！地上に出る前の子実体が見える。地上部の老熟菌に、ソーッと慎重に触れる相良先生。発生地の急斜面での作業は腰に負担が掛かって心配になる。



5—「モグラの坑道」が見えてきた！最後の仕上げ段階か？種類の違うはさみで作業が続く。子実体の横に置かれた「めがね」が細かい作業を物語っている。



6—全容が現われた！「モグラの巣」の下に「坑道」がハッキリと見える。「便所跡」と思われる箇所から子実体（偽根）が伸び上がっているのがわかる。コンパスを使って坑道のサイズを測定する。時としてモグラが顔を出すこともあるそうだ！



7—相良先生愛用の折り畳み式の物差し、二ツ折り50cm。「巣や坑道」の大小そのサイズが理解できて見やすい。



8—発生地の詳細な記録を手帳に記す相良先生の真剣な様子。回収された「便所跡」から、白い菌糸と樹木の細根が共に繁っている事や、消化されずに残った食物のチキン質やモグラの毛などで、餌やモグラの同定研究が始められる。



9—「モグラの巣」と発生地の植生・斜面の関係も営巣条件になっているらしい。何年も何代も同じ場所に営巣するには「共生出来得る樹木」と「斜面による水はけの良さ」も欠かせないようだ。



10—発掘後の全容写真を撮る相良先生。今度は中腰でストロボ撮影。過去の数々の発掘には、雨の日も風の日も、時には二日間におわたる大変な発掘作業もあったそうだが、相良先生曰く「至福の時間！」



11—モグラの「巣」取り出し！楕円球形でハンドボール大、落葉を積み重ね、または押し重ねた、軽くてフワフワのとても柔らかい感触で、まるで落葉の芸術品、大感激！入り口はひとつで指1本半サイズ、巣内の葉はモグラの体温で乾燥するそうだ。営巣していたモグラの種は、相良先生の調査により「ミズラモグラ」と同定された。



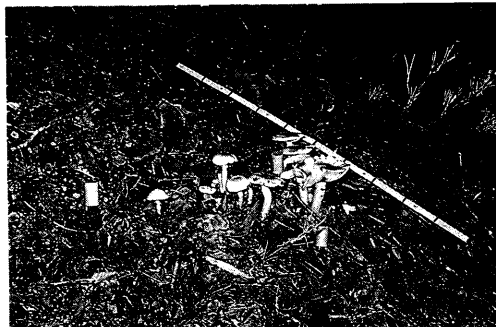
12—相良先生のモグラのセッチンタケ発掘「七つ道具」！？スコップ・小型ツルハシ・はさみ2種・折畳み物差し・コンパス・カメラ用品一式・記録手帳・フィルムケース・ペン数種・採集物持ち帰り用品など…多数。



13—B地点発見地（A地点より140m下る）A地点の発掘時に偶然発見したナガエノスギタケ、成菌1個・老熟菌×6個。当日は相良先生に報告しマーキングの。5年後に相良先生発掘作業される。



14—B地点発生地の記録写真。暗い林に白っぽく、ナガエノスギタケの塊が目立つ、子実体数18個！やはりA地点と同様、斜面に発生している。傍らにスコップと小型ツルハシがスタンバイしている。（相良先生撮影・提供写真）



15—B 地点発掘作業前の様子。18個の新鮮な子実体と発見時の5年前の発生跡マークのフィルムケースが見える。物差しは全長1m、如何に発生量が多いか理解できる。(相良先生撮影・提供写真)



16—B 地点発掘作業後の記録写真。中央の子実体を挟んで両側が発掘されている。最初に掘り進んだ側からは「モグラの巣」が得られず、翌日反対側から再度発掘され、二日ばかりではぼ一周！掘った事になる。「巣」と「便所跡」と思われる箇所に白い子実体地下部（偽根）が見え、地上の子実体に伸び上がっているのが理解できる。(相良先生撮影・提供写真)

(連絡先：〒602-8179 京都市上京区下長者町通り裏ノ門西入ル坤高町86-4)

ああ長治谷作業所，さらばイカタケ

小 寺 祐 三

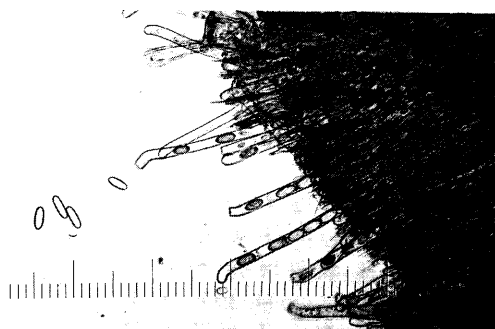
2000年5月5日，ゴールデンウィークで市内は賑わう中，川崎友絵さん，妻，私の3人で芦生演習林へ入山した。というのも梶山氏ご夫妻からエツキクロコップタケが発生しているとの情報を得，早速観察に行ったのである。

気温も上昇し天気は最高，快適なドライブで無事に地蔵峠に到着した。ゲートをくぐり，歩き始めると山側の日陰になったところでは残雪が方々で見られ，この山の深さがひしひしと感じられた。

それでも寒くはなく，日当たりの良い道端に早速大きなアオダイショウが登場，つづいて水溜りにはヒキガエル，イモリと冬眠から目を覚ましたばかりの生物たちの賑やかな歓迎をうけた。土手の上にはスマレ，イワウチワが美しく咲いており，春の到来を確実に感じつつ歩き続けた。やがてポイントへ到着するとすぐにエツキクロコップタケは発見できた。大きな倒木に1列に整然と並んでいる個体や，3，4個体がかたまって発生してい



倒木に発生するエツキクロコップタケ



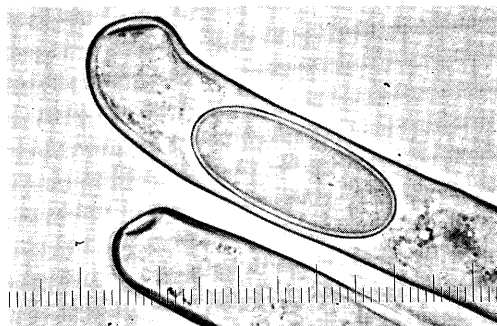
子のう (スケール1目盛10.1 μ m)($\times 50$)

るもの等いろいろな発生状況でみられ、どれもが完熟状態にあり、時々吹いてくるそよ風によってポッと胞子を煙のように吹き上げる状態までが観察できた。写真撮影を終えて昼食となったが、山で食べる食事はどうしても美味しいのだろう。眼下を流れる川にはイワナかアマゴが群れているのがみえ、あくまで静寂そのもので心身ともに生き返る気分だった。

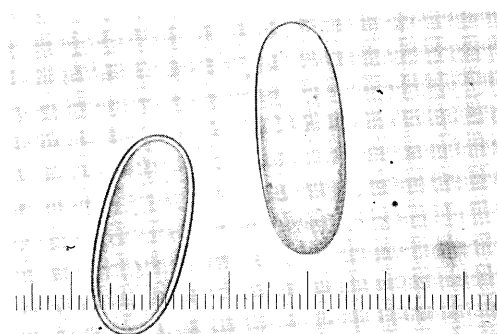
帰路は長治谷へのルートを取り、咲き誇るイワウチワに歓声をあげながらやがて作業所へ到着して全員がアッと驚いた。今年の積雪でこの建物が

中央からみるも無残に崩れ落ちているではないか。危険防止のために周囲にはロープが張られ、窓には板がぶらさげられていて、それは無残な姿となっていた。どれだけ多くの人たちがこの建物の前でそして中で様々な思い出を残してきたことだろうか。それが今、遂に崩壊してしまったのである。後日の新聞記事によると建物の復旧はせず、解体することになったと報道されていた。まことに残念の一言である。長治谷作業所最後の写真となってしまった。

季節は晩秋へと移り、11月中旬に滋賀県植物同好会の森先生から連絡をいただき、滋賀県八日市



子のう先端 (スケール1日盛1 μ m)($\times 500$)
顕微鏡写真は35ミリフィルム上での撮影倍率



エツキクロコブタケの胞子 ($\times 500$)



長治谷作業所前にて



イカタケ伸長直前



長治谷作業所



発生中のイカタケ

市でイカタケが大発生しているとの事で19日の日曜日に臨時観察会ということになった。これはありがたいき幸せと喜び勇んで早朝から自宅を出発、八日市駅で集合して一路愛知川方面へと走行。10分程度で到着したところは「河辺いきものの森」と名付けられたボランティアの人たちに守られている広い森だった。車を降りて2、30歩も歩くとその足元にはイカタケが、ハタケチャダイゴケが、そしてキツネノタイマツがひとまとめとなって発生していた。全員がオー、オーと歓声をあげるなかで急いでカメラをセットする人、じっとイカタケを凝視して固まっている人、「ここにもある、あそこにもある」と興奮ぎみに声を発する人など現場は大変な賑わいとなった。

イカが天から降ってきて地面に頭を突っ込んでしまったような様子は実にユニークであり、こんなに面白いシーンは今までに見たことがなかった。帰りには許可を得て、成長したイカタケ1個体とタマゴを3個いただいて夕方に帰宅し、プラスチック容器に入れて観察を続けることにした。夜8時には1個のタマゴの上部が割れてきれいに折たたまれたイカの足が見え出した。10時になるといよいよ伸長をはじめ、1.5センチほどに成長

してきた。深夜がクライマックスと期待して、少し体を休めようと横になったのが大失敗だった。そろそろ次の撮影チャンスかと時計を見るとナント時刻は無常にもAM6:00をさしているではないか。慌てて机に向かい、照明のスイッチを入れると、時既に遅くイカタケはすっかりと成長して完成していた。イカタケは笑っているかのようにみえた。家族の者は部屋の外を通っても臭いといってドアを閉めてしまうが、イカタケと共に一晩中を過した私には嗅覚が順応したのか匂いは大して気にもならず熟睡してしまったのである。残りのタマゴは発育の兆しが見えないので容器に入れたまま庭へだしておいた。3日後に妻に云われて見に出ると全てのタマゴが完全に伸長してしまっていた。こんな経過をたどってしまったわけで、結局イカタケの成長記録は観察、撮影ができないまま終わってしまった。

すべてのイカタケはにわか作りのプラスチック製の植木鉢に土、チップ、ワラを入れた中へ埋めておいた。もしもこれで来年にイカタケの発生が見られたなら、その時こそ成長の記録を確実に観察出来るだろうと期待をつないでいる。

(連絡先：京都市左京区岩倉南平岡町56)



PM 8 : 00



AM 6 : 00



PM 10 : 00



すっかり出来上がったイカタケ

関西菌類談話会会報投稿案内

1. 投稿は原則として本会会員に限ります。
2. 原稿の採否、掲載の順序は編集委員会の決定にお委せ下さい。
3. 編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せください。
4. 原稿には表題、著者名、本文の他に必要なら引用文献（あるいは参考文献）をあげてください。
5. 別紙に著者名、連絡先、住所、電話番号を書いて添付して下さい。
6. 著者校正は初校だけとし、2日以内に原稿正本とともに速達郵便で返送してください。
7. 掲載された原稿はお返ししませんが、図・写真に限り著者校正のときにお返しします。
8. 写真製版料実費は著者の負担とします。
9. 原稿は会報編集長宛にお送りください。

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇ かびやきのこに関する記事、図、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇ 図は黒インクで、少し大きめ（刷り上がりの約1.5倍）にお書きください。（ボールペンは不可です）
- ◇ 原稿の分量は400字づつめ原稿用紙4～5枚程度としますが、1枚でも半分でも結構です。
- ◇ 写真の掲載を希望される方は、編集委員長におたずねください。
- ◇ 原稿宛て先

〒521-1222 滋賀県神崎郡能登川町大字佐野336-16

関西菌類談話会会報編集委員長

佐々木久雄

TEL. 0748-42-2975

編集委員：岩瀬 剛二、佐野 修治、丸山健一郎、
小林 久泰、上田 俊穂、横山 和正
(順不同)

表紙によせて

コウタケ *Sarcodon aspratus* (Berk.) S. Ito

冬虫夏草菌を専門と意気がっていても、大形のきのこに出逢うとやはり感激する。コウタケは北関東地方では好まれるらしいが、写真のコウタケが発生していたマツタケ山近辺では見向きもされないらしい。もっとも松は枯れ、クヌギやヒサカキの生繁る林にこの時期誰も入ろうとしない。そんな場所に迷い込んでのご褒美食用菌だけに尚更、ドキリ！とした。点々と連なる大きな天女の舞いであった。

結局、食べずじまいで、今もベランダにカラカラ音たてて風と踊っている。

10月12日 京都府亀岡市にて 杉山 信夫

編集後記

皆さんのご支援のおかげで、会報24号の発刊となりました。昨年度の総会で、今年こそ順調に発刊できるようがんばろうと決意したにもかかわらず、1号だけになりました。なお、今号には、観察会記録がありませんが、諸般の事情で次号回しになりました。お詫び申し上げます。

会報の発刊には会員の皆様の協力が必要です。会報に掲載する記事の原稿をどうかたくさんお寄せいただきたいと思います。また、観察会の世話人の方々には、観察会の報告と観察会で観察できた記録は必ずお送りください。その時、できれば原稿のフロッピーもいっしょにお送りいただければ、編集作業の効率化に役立ちます。どうか、よろしく願いいたします。
(佐々木久雄)

関西菌類談話会会報 No. 24 (増刊号)

2001年12月1日 印刷

2001年12月1日 発行

編集 関西菌類談話会会報編集委員会

発行 関西菌類談話会

発行所 関西菌類談話会

事務局 〒573-0017 枚方市印田町35-14

TEL. 0720-47-1386

下野 義人

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る